

2026 年 7 月 13 日

文化庁企画調査会資料

目次

日本の歴史的建造物の保存と伝統技術の継承に向けて	2
屋根工事施工数量 保存会会員アンケート結果	3
1.令和 3～7 年度 年間平均面積の実績と希望	4
2.令和 3～7 年度 国宝・重文の年間平均面積の実績と希望	5～6
3.令和 3～7 年度 国宝・重文の実績と希望金額	7～8
4.檜皮葺・柿葺・土居葺・茅葺 施工数における必要人数	9
正・準会員 年代別割合	10
正・準会員 会員数推移表、採取(原皮師)研修生人数推移表	11
当会からの要望	12～13
正会員からの意見・要望	14



日本の歴史的建造物の保存と伝統技術の継承に向けて

【序文】

我が国の歴史や文化を語る上で、神道や仏教などの融合によって生まれた日本独特の生活様式は、そのすべてが文化であり歴史であると言えます。そこには、特有の精神性、能楽や歌舞伎、和装、茶道・書道、和食、武道、民具さらには神社仏閣や城郭、伝統的な宿場町、民家・町並みに至るまで、数え切れないほどの歴史的建造物が深く関わっています。

これら歴史的建造物の背景にある日本の伝統建築は、木造による「木の文化」であり、西洋の「石の文化」とは大きく異なります。1300年以上前から日本独特の木造建築が現存しているという事実は、伝統的な木構造の技術や屋根の持つ曲線美が、世界に誇れるものである証左に他なりません。そして、これを今日まで維持してきたものこそ、世界的に優れた修復技術や復元保存技術といった「職人の技」です。

なかでも屋根に注目すると、瓦葺（かわらぶき）・檜皮葺（ひわだぶき）・柿葺（こけらぶき）・茅葺（かやぶき）といった代表的な工法が見受けられます。特に檜皮葺は、日本独特の古い歴史を持つ技術です。森林の立木から木へラとロープ1本で檜皮（ひわだ）を採取し、その材を薄く加工して竹釘で屋根に打ち留める技術は工業化ができず、すべて職人の手作業で行われています。この檜皮葺は国宝や重要文化財に多く見られますが、一方で、国の指定を受けていない歴史ある建造物も数多く存在します。しかし、現状では地域の方々による保存・維持管理が非常に困難な状況にあります。

加えて、近年は指定建造物の保存修理件数自体が激減しており、業界としても在庫過多、職人数の減少、新規雇用の見合わせ、さらには技術研鑽の場が減少するなど、事業継承と技術継承の双方において非常に厳しい状況に直面しています。

そこで当保存会では、客観的に現状を把握するため、過去5年間の実績を調べるアンケートを実施し、別表の通り集計いたしました。その結果、明らかになったのは「施工面積の減少」です。現在の施工実績は、文化庁が発表している「国宝・重要文化財を維持するために棟数から割り出された長期需要予想の修理面積」には遠く及ばない数値であり、このままでは建造物本体の深刻なダメージへと繋がります。

つきましては、登録文化財や各自治体の指定建造物、さらには未指定の建造物も含め、これら貴重な歴史的建造物を未来へ保存・継承していけるよう、実効性のある施策をご検討いただきたく存じます。

【公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会の説明】

当会は、昭和34年結成の「全日本檜皮・柿葺工事業組合」を前身とし、昭和44年「全日本社寺屋根工事業組合」、昭和54年「社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会」への改組を経て、平成22年より「公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会」として活動しております。檜皮葺、柿葺、茅葺をはじめとする植物性屋根の伝統技術を用いた建造物の維持・保存に努めるとともに、その技術を次世代へと正しく伝承することを目的とする団体です。

令和2年には、当会が保存団体として認められている「檜皮葺・柿葺」「茅葺」「檜皮採取」「屋根板製作」を含む『伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術』が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

屋根工事施工数量 保存会会員アンケート結果

(公社) 全国社寺等屋根工事技術保存会

会長 友井 辰哉

集計結果

令和3年度	国宝・重文	県指定	市・町指定	未指定	合計
檜皮葺	1,303㎡	111㎡	30㎡	1,472㎡	2,916㎡
柿葺	710㎡	872㎡	220㎡	624㎡	2,425㎡
土居葺	1,505㎡	㎡	127㎡	488㎡	2,120㎡
茅葺	3,444㎡	586㎡	1,189㎡	1,877㎡	7,096㎡

令和4年度	国宝・重文	県指定	市・町指定	未指定	合計
檜皮葺	1,285㎡	682㎡	199㎡	1,272㎡	3,438㎡
柿葺	2,104㎡	458㎡	499㎡	987㎡	4,047㎡
土居葺	1,112㎡	㎡	339㎡	291㎡	1,742㎡
茅葺	3,410㎡	2,240㎡	1,164㎡	3,428㎡	10,242㎡

令和5年度	国宝・重文	県指定	市・町指定	未指定	合計
檜皮葺	1,962㎡	348㎡	68㎡	627㎡	3,005㎡
柿葺	370㎡	211㎡	㎡	499㎡	1,080㎡
土居葺	101㎡	101㎡	77㎡	1,137㎡	1,416㎡
茅葺	4,138㎡	1,568㎡	940㎡	2,203㎡	8,849㎡

令和6年度	国宝・重文	県指定	市・町指定	未指定	合計
檜皮葺	2,348㎡	520㎡	427㎡	1,078㎡	4,373㎡
柿葺	695㎡	76㎡	165㎡	1,097㎡	2,033㎡
土居葺	2,168㎡	46㎡	㎡	917㎡	3,131㎡
茅葺	2,838㎡	1,868㎡	1,825㎡	1,586㎡	8,117㎡

令和7年度(上期)	国宝・重文	県指定	市・町指定	未指定	合計
檜皮葺	2,082㎡	364㎡	80㎡	567㎡	3,093㎡
柿葺	1,676㎡	142㎡	126㎡	54㎡	1,998㎡
土居葺	2,813㎡	440㎡	㎡	181㎡	3,435㎡
茅葺	2,236㎡	421㎡	860㎡	1,567㎡	5,084㎡

	国宝・重文 実績平均	年間希望面積	年間平均推奨 施工数量※	備考
檜皮葺	1,796㎡	6,200㎡	4,328㎡	
柿葺	1,111㎡	3,512㎡	2,932㎡	
土居葺	1,540㎡	2,701㎡	文化庁資料に記載なし	
茅(差茅省く)	3,213㎡	8,350㎡	5,045㎡	

※文化財保存修理用資材(植物性屋根)の長期需要予測
(国産良質材使用推進・供給地活性化事業)報告書 令和3年3月文化庁発行

1. 令和3～7年度 年間平均面積の実績と希望(国宝・重文、県、市町指定、未指定含む)

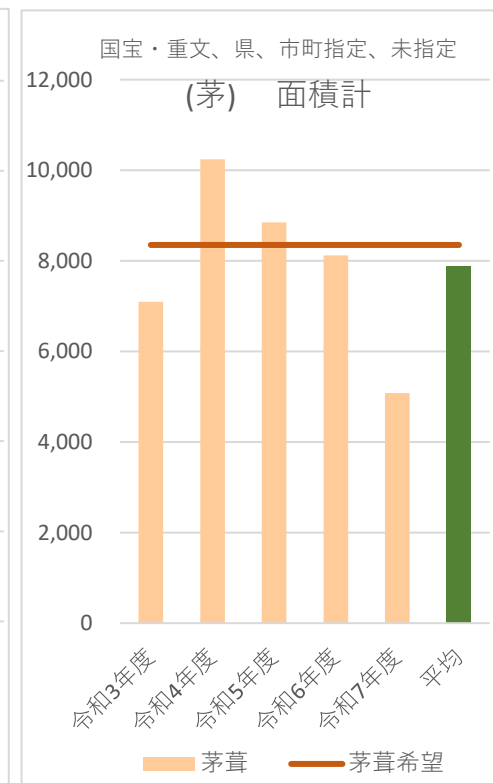
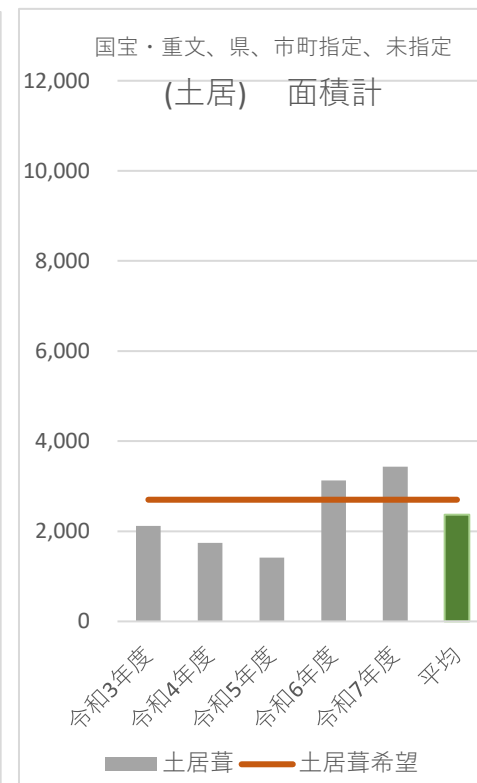
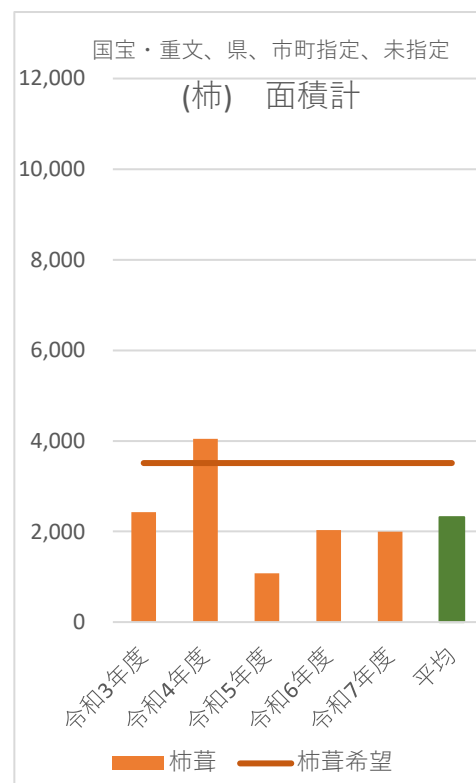
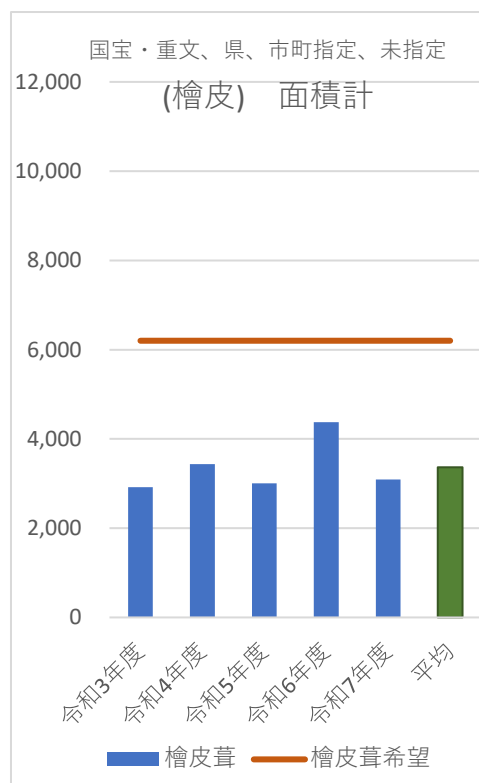
	実績年間平均面積と概算金額※1		希望年間施工面積と概算金額※2	
檜皮葺	3,365㎡	756,189,151	6,200㎡	1,393,388,000
柿葺	2,317㎡	289,392,545	3,512㎡	438,656,580
土居葺	2,369㎡	91,206,820	2,701㎡	103,999,304
茅葺	7,878㎡	673,848,193	8,350㎡	714,259,000
合計		1,810,636,709		2,650,302,884

※1 実績年間平均面積と概算金額は、過去5年の積算書平均単価を参照

※2 希望年間施工面積と概算金額は、令和7年度の積算書単価を参照

●令和7年度積算書単価(平葺)と過去5年の平均単価

種類	令和7年度	過去5年の積算書の平均単価	令和8年度 会員数
檜皮	251,700	224,740	132
柿	140,900	124,920	
土居(杉)	43,400	38,504	
茅	96,400	85,540	31

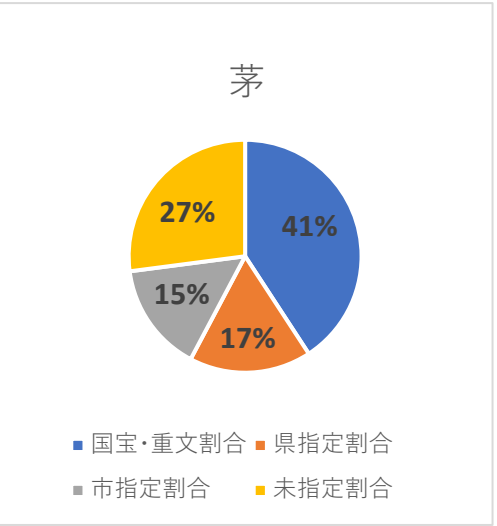
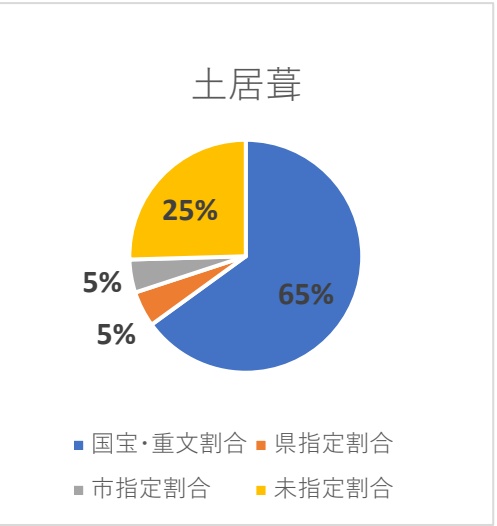
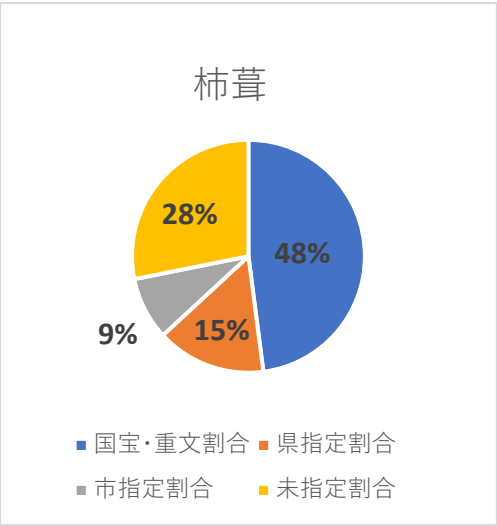
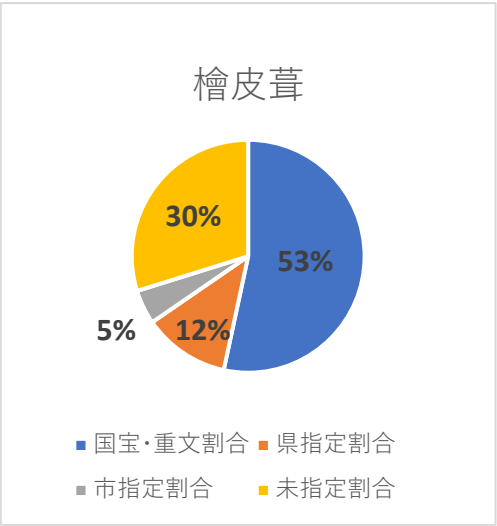


2. 令和3～7年度 国宝・重文の年間平均面積の実績と希望

2-1. 国宝・重文、県、市町指定、未指定の実績比率

	国宝・重文割合	県指定割合	市指定割合	未指定割合
檜皮葺	53%	12%	5%	30%
柿葺	48%	15%	9%	28%
土居葺	65%	5%	5%	25%
茅	41%	17%	15%	27%

指定物件総棟数（未指定を含まない）
国指定重要文化財（建造物）2,605件 5,597棟
都道府県指定文化財（建造物）2,581件 4,591棟
市区町村指定文化財（建造物）9,905件13,295棟



※都・道・府・県・市指定の棟数は17,886棟であることから、本来、県指定は国指定と同程度、市指定は倍程度、受注していなければおかしい。
このことより、地方指定は修理が行われず、放置され、消失の危機に瀕していると推測される。

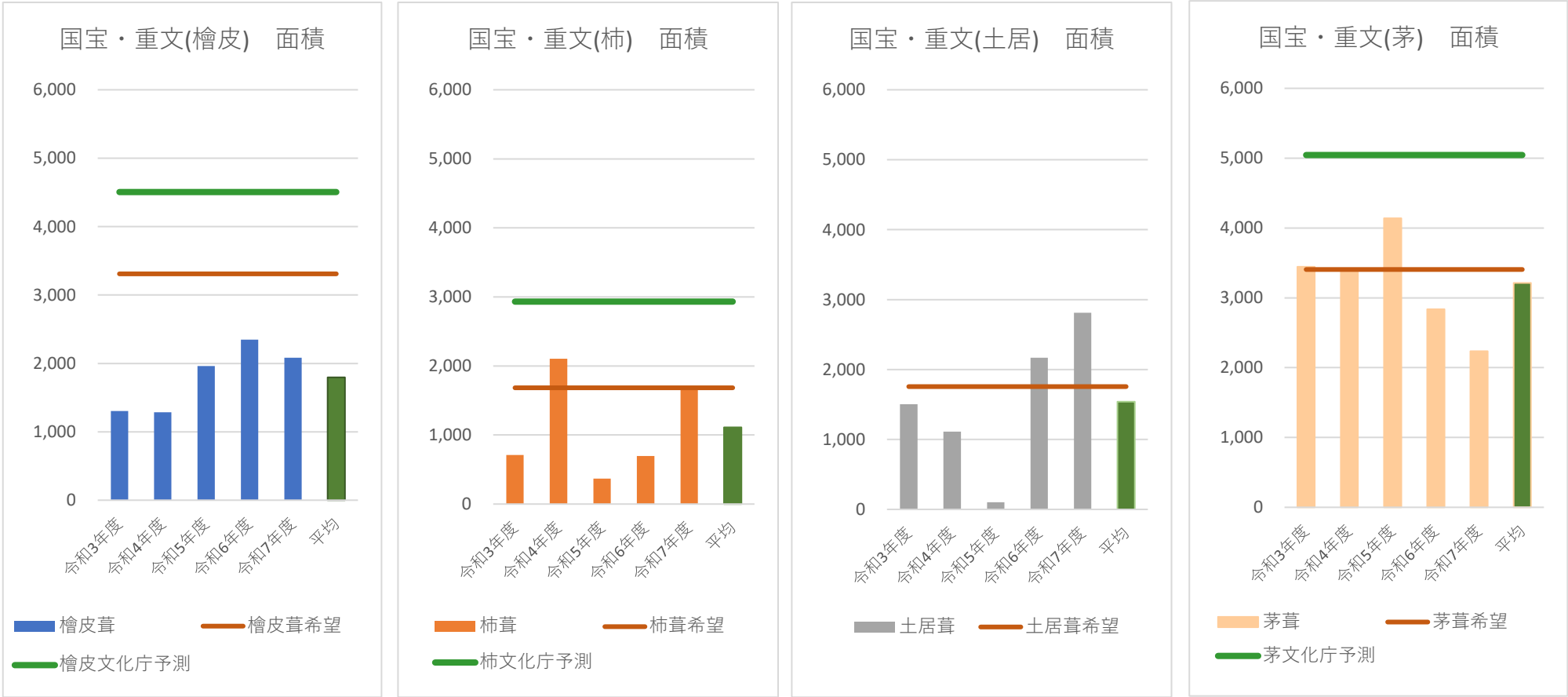
2－2．国宝・重文の年間平均面積の実績と希望

	実績年間平均面積	希望年間平均面積 × 国宝・重文割合	長期需要予測
檜皮葺	1,796㎡	3,309㎡	4,328㎡
柿葺	1,111㎡	1,684㎡	2,932㎡
土居葺	1,540㎡	1,756㎡	文化庁資料に記載なし
茅葺	3,213㎡	3,406㎡	5,045㎡

※長期需要予測

文化財保存修理用資材(植物性屋根)の長期需要予測
(国産良質材使用推進・供給地活性化事業)報告書
令和3年3月文化庁発行

※檜皮、柿に関しては、国宝・重文割合の希望面積にも長期需要予測にも遠く及ばない

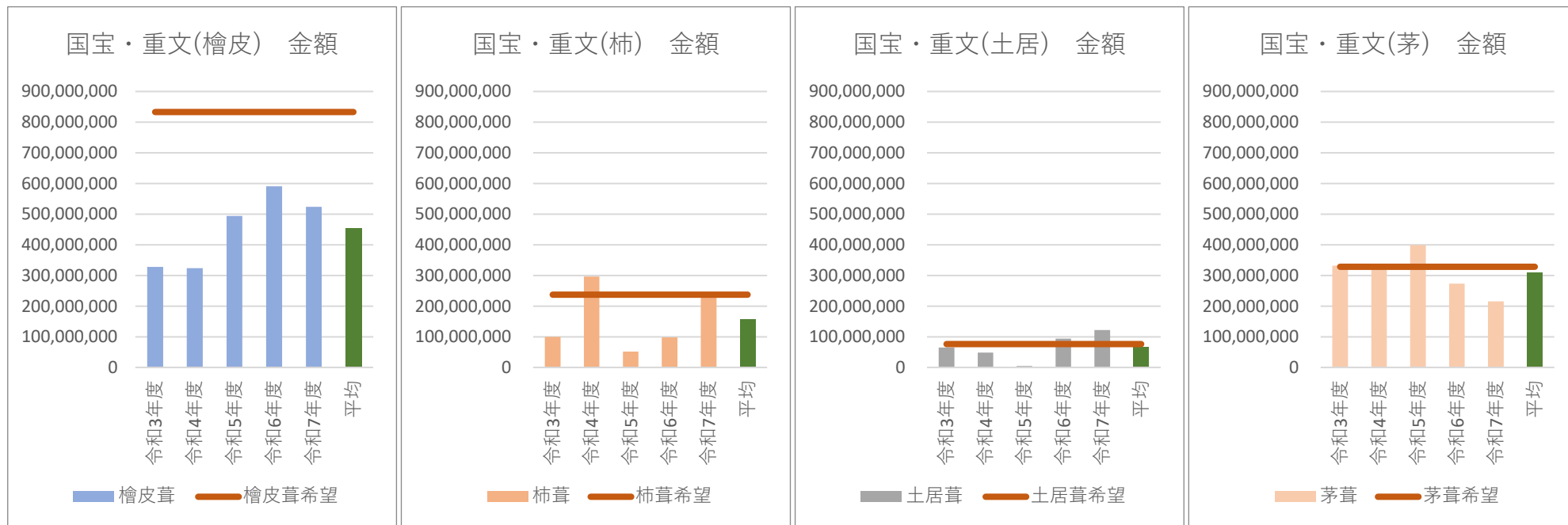


3. 令和3～7年度 国宝・重文の実績と希望金額（平葺きのみで計算）

	実績／年平均		希望／年		備考
	過去5年の積算書の平均単価		令和7年度の積算書単価		実績時の人数（檜皮・柿146人、茅34人）
	労務単価に諸費約26%含む		労務単価に諸費約35%含む		現在の人数（檜皮・柿132人、茅31人）
	平均売上金額	平均売上金額/人	平均売上金額	平均売上金額/人	
檜皮葺	403,625,219	5,192,641	832,957,335	11,724,706	1人工で計算
柿葺	138,771,704	5,192,641	237,256,024	11,724,706	1人工で計算
土居葺	59,289,999	5,192,641	76,202,364	11,724,706	1人工で計算
茅葺	274,848,574	5,805,772	328,318,178	8,149,704	0.8人/1.4人=0.57(手元省く)人工で計算
合計	876,535,497		1,474,733,901		

※実際は積算書単価の10～20%減で施工しているため、一人当たりの平均売上金額はさらに低くなる

※今後、棟数は増えず、格上げ指定が増えることが予測されるため、国宝・重文への依存率はさらに高くなることが予想される



■参考資料

●労務単価 ※社会保険料含む。正・準会員平均年齢＝48才。

	人工単価/日	日数/月	月/年	人工費用年間計/人
平均労務単価	30,000	20日	12ヶ月	7,200,000

※令和7年度積算書単価記載の人工費の約85%で計算

●労務単価＋雇用に伴う必要経費（一人当たり）

	割合	金額/年	備考
労務単価/人	100%	7,200,000	給与＋社会保険
法定福利費	15%	1,080,000	
労務管理費等	8%	576,000	
現場作業経費	18%	1,296,000	安全管理費等
小計		10,152,000	

※一人当たりの必要経費10,152,000円X163人＝1,654,776,000円＋材料費約700,000,000円

※合計 年間 約2,320,000,000円の施工金額が必要

※うち、国宝・重文比率で、檜皮・柿・土居・茅を合わせた合計1,480,000,000円平滑的に確保していただきたい

※参考情報 大工の労務単価と雇用に伴う必要経費

大工単価/人日	割合	金額
労務単価	100%	27,721
法定福利費	15%	4,159
労務管理費等	8%	2,218
現場作業経費（安全管理費等）	18%	4,990
合計		39,088

・参考資料

○国土交通省 Press Release

「令和6年3月から適用する公共工事設計労務単価について」

令和6年2月16日 不動産・建設経済局 建設市場整備課 発行

4. 檜皮葺・柿葺、土居葺、茅葺 施工数量における必要人数（平葺のみ）

※参考 積算資料歩掛

檜皮葺（1㎡当り）			柿葺（1㎡当り）			土居葺（1㎡当り）			茅葺（1㎡当り）		
原皮師	2.06	人工	材料拵	0.94	人工	材料拵	0.32	人工	葺師	0.8	人工
材料拵	1.97	人工	葺師	0.46	人工	葺師	0.13	人工	葺工手元	0.6	人工
葺師	0.63	人工	合計	1.4	人工	合計	0.45	人工	合計	1.4	人工
合計	4.66	人工									

檜皮葺	（文化庁）長期需要予測 4,328㎡/年 $4,328\text{㎡} \times 4.66\text{人工} \div 240\text{日} = 20,168\text{人工}$ $20,168\text{人工} \div 240\text{日} = \underline{\underline{84人}}$	当会希望施工数量（指定、未指定含む） 6,200㎡/年 $6,200\text{㎡} \times 4.66\text{人工} \div 240\text{日} = 28,892\text{人工}$ $28,892\text{人工} \div 240\text{日} = \underline{\underline{120人}}$
柿葺	（文化庁）長期需要予測 2,932㎡/年 $2,932\text{㎡} \times 1.4\text{人工} \div 240\text{日} = 4,104\text{人工}$ $4,104\text{人工} \div 240\text{日} = \underline{\underline{17人}}$	当会希望施工数量（指定、未指定含む） 3,512㎡/年 $3,512\text{㎡} \times 1.4\text{人工} \div 240\text{日} = 4,916\text{人工}$ $4,916\text{人工} \div 240\text{日} = \underline{\underline{20人}}$
土居葺	（文化庁）長期需要予測 -----㎡/年	当会希望施工数量（指定、未指定含む） 2,701㎡/年 $2,701\text{㎡} \times 0.45\text{人工} \div 240\text{日} = 1,215\text{人工}$ $1,215\text{人工} \div 240\text{日} = \underline{\underline{5人}}$
茅葺	（文化庁）長期需要予測 5,045㎡/年 $5,045\text{㎡} \times 1.4\text{人工} \div 240\text{日} = 7,063\text{人工}$ $7,063\text{人工} \div 240\text{日} = \underline{\underline{29人}}$	当会希望施工数量（指定、未指定含む） 8,350㎡/年 $8,350\text{㎡} \times 1.4\text{人工} \div 240\text{日} = 11,690\text{人工}$ $11,690\text{人工} \div 240\text{日} = \underline{\underline{48人}}$
合 計	130人 + 土居葺人数	193人

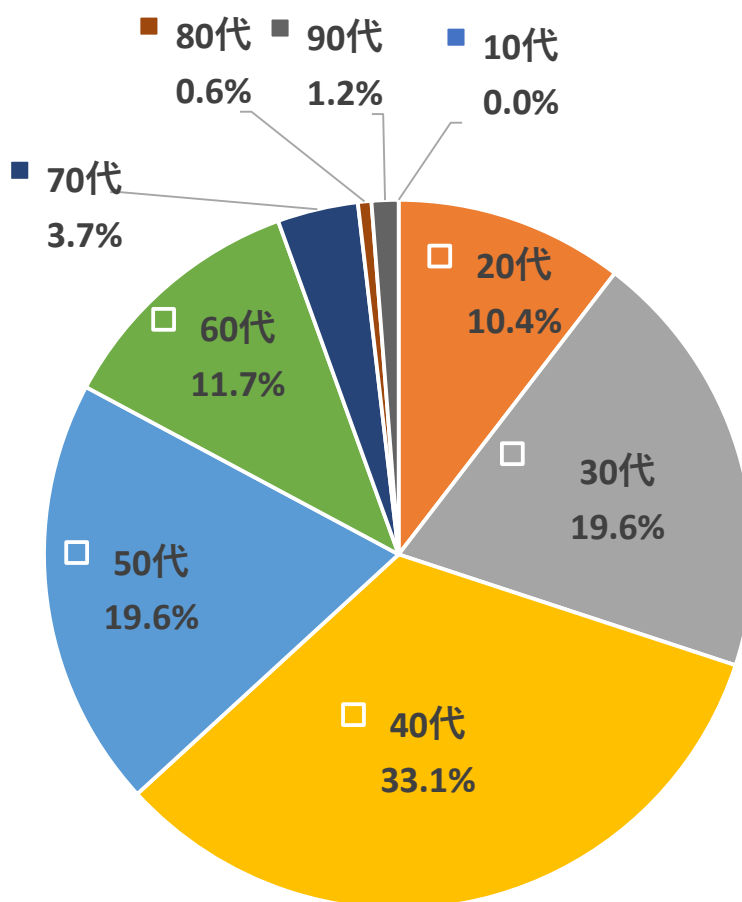
※令和3年度発表 植物性屋根長期需要予測（文化庁）

※上記計算には軒付及びその他の付帯工事を含んでいない為、実施工の必要人数は2割程増える
※当会としては、未指定も含め、現総棟数を維持していくためには、230～250人程度確保が必要
※別表（P10,P11）の会員数推移表より、減少に歯止めをかけ、人材確保が急務である

■正・準会員 年代別割合

年代	人数
10代	0
20代	17
30代	32
40代	54
50代	32
60代	19
70代	6
80代	1
90代	2
	163

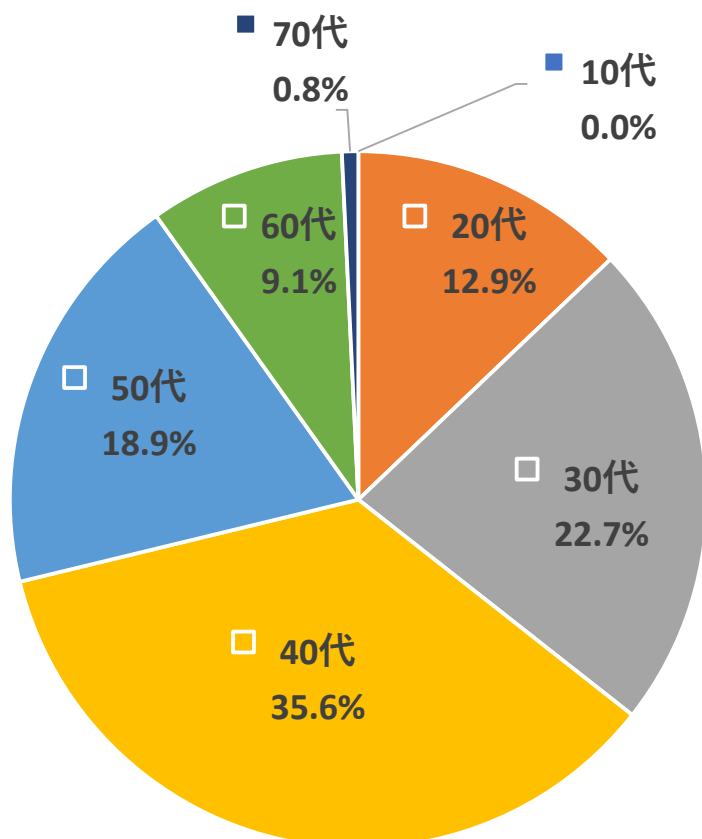
平均年齢 46.5



■準会員 年代別割合

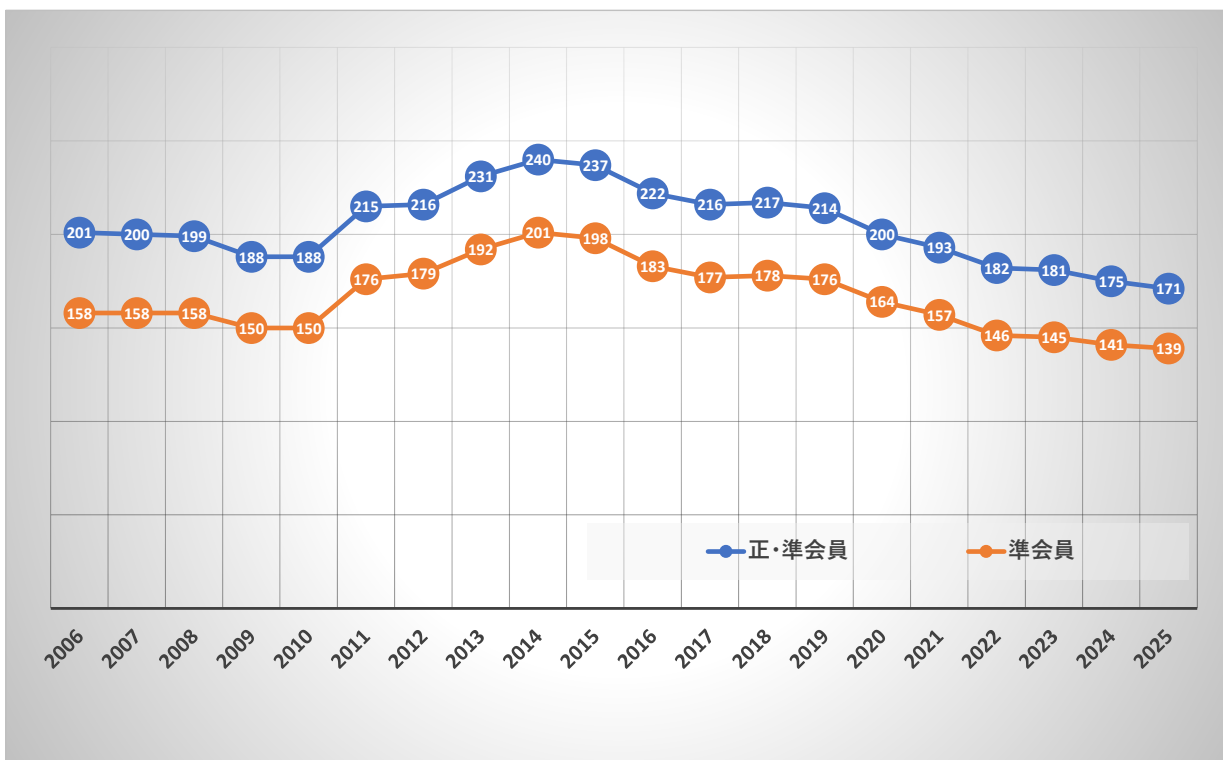
年代	人数
10代	0
20代	17
30代	30
40代	47
50代	25
60代	12
70代	1
	132

平均年齢 43.4



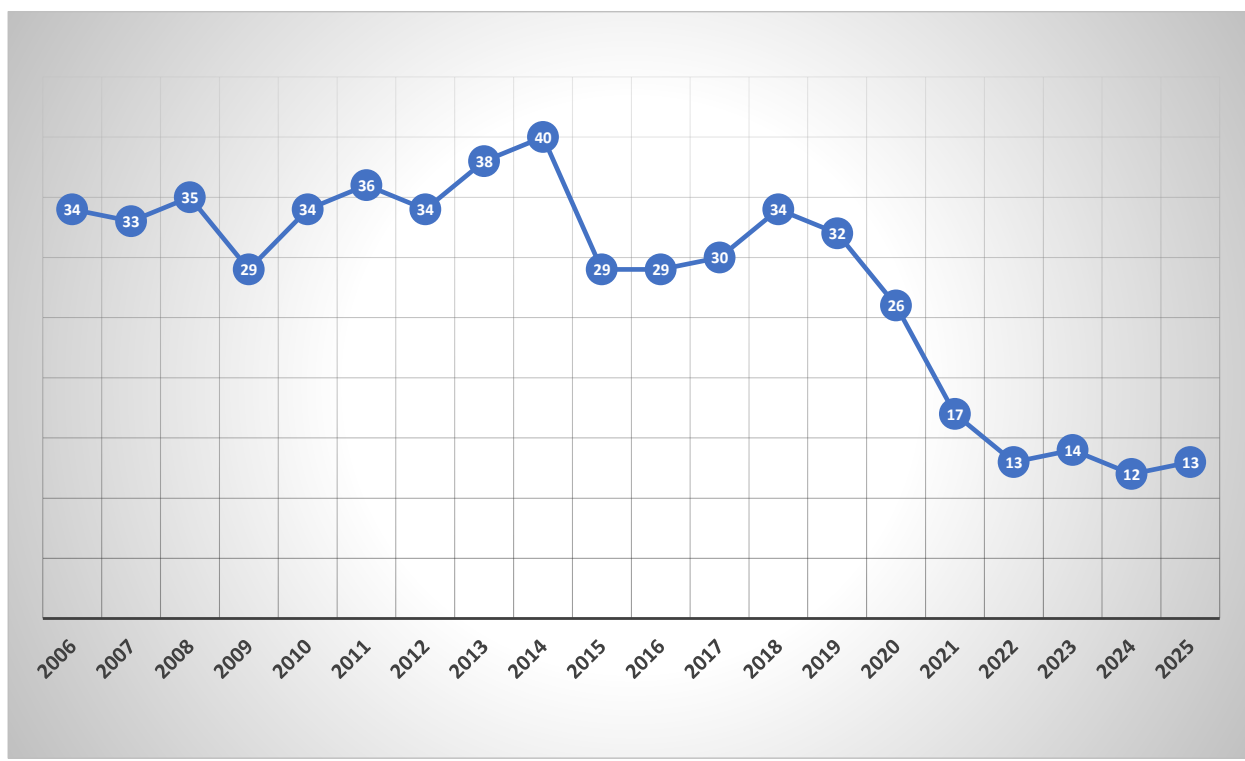
■正会員・準会員 会員数推移表

年度	正・準会員	準会員
2006	201	158
2007	200	158
2008	199	158
2009	188	150
2010	188	150
2011	215	176
2012	216	179
2013	231	192
2014	240	201
2015	237	198
2016	222	183
2017	216	177
2018	217	178
2019	214	176
2020	200	164
2021	193	157
2022	182	146
2023	181	145
2024	175	141
2025	171	139



■採取(原皮師) 研修生人数推移表

年度	採取研修生
2006	34
2007	33
2008	35
2009	29
2010	34
2011	36
2012	34
2013	38
2014	40
2015	29
2016	29
2017	30
2018	34
2019	32
2020	26
2021	17
2022	13
2023	14
2024	12
2025	13



(公社) 全国社寺等屋根工事技術保存会からの要望

1. 集計グラフ 1 (P4) より

業界を継続していくために必要な希望施工数量の中で、特に檜皮葺に関して施工数量（実績）が少なく、各社在庫過多となっており、非常に厳しい状況となっている。業界の安定と次世代の若手を育成するためにも、年間の施工数量を希望に近い数値になるよう平滑化していただきたい。

2. 集計表 2-1,2-2 (P5.P6) より

国宝・重要文化財における植物性屋根工事のみの発注面積を以下のように確保していただきたい。

	希 望		過去 5 年の平均	
檜 皮 葺	3,309 m ² /年	832,875,300 円	1,796 m ²	403,633,040 円
柿 葺	1,684 m ² /年	237,275,600 円	1,111 m ²	138,786,120 円
土 居 葺	1,756 m ² /年	76,210,400 円	1,540 m ²	59,296,160 円
茅 葺	3,406 m ² /年	328,338,400 円	3,213 m ²	274,840,020 円
計		1,474,699,700 円		876,555,340 円

3. 集計グラフ 2 (P6) より

文化庁発表の令和 3 年度の長期需要予測（予測葺替周期と予測葺替面積）

- ・ 檜皮葺 4,328 m²/年
- ・ 柿葺 2,932 m²/年
- ・ 茅葺 5,045 m²/年

上記は、国宝・重文に格上げ（新指定）されたため増えているものと理解しますが、全体の未指定も含む全国の総棟数はそれほど増えていないと思います。増々文化財修理に依存せざるを得ないことが予想されますので、予算の増額をしっかりと行っていただきたい。

4. 集計表 3 及び集計グラフ 3 (P7.P8) より

希望施工数量から檜皮葺、柿葺、土居葺、茅葺の工事金額（付帯工事は含まず）は令和 7 年度時点の積算単価で約 147,000 万円となります。

実績からの計算では 98,500 万円となるので厳しい状況にあります。

また、正・準会員数からの考察でも、163 名に対して限界を超えた状況であるので国の援助・協力が不可欠となっております。

5. 当会の会員数の推移 (P10.P11)

当会の会員数も平成 26 年の 240 名をピークに令和 8 年現在 163 名に激減している。今後、準会員の高齢化と新人入社や若手の職人不足が一層懸念される。

6. 国宝・重要文化財以外の地方指定および未指定の植物性屋根建造物において、維持保存と有効活用を一体的に進める仕組みの構築

具体的には、これら修理現場を伝統技術の「研修の場」として機能させるとともに、実施中は現場を一般公開する。これにより、伝統技術の普及啓発と認知度向上、および文化継承に対する社会的理解の深化を図る。一人前の職人育成には 10 年の経験を要するが、実務を経験できる現場は減少一途にある。この危機的状況を打破するため、本補助金を活用して当会が主導する技術研鑽の場を確保・拡充したい。修復現場と連動した実践的な研修により、若手・中堅職人の確実なスキルアップを促し、未来への技術継承に寄与するものである。

正会員からの意見・要望

- ・ 近年重要文化財の工事（入札）が減少していると思います。
それに伴い職人人数も減少していると思います。
工事が増えない限り、職人の人数も減少すると思います。工事をできる限り増加して欲しいです。
- ・ 重要文化財は各年度、業界全体で 3,000 平米を平均して工事を出していただきたいです。
- ・ 年間やはり檜皮葺で 150 坪前後は施工を行いたい。
柿葺きがその間に 60 坪前後、土居葺に関しては数量の制限がないので、実際のところはどのような平米数であっても施工は可能です。
- ・ ●●県ですが、毎年工事を発注して欲しいです。
一気に何棟も出たり、一棟しか出なかったり困ります。
- ・ 自社として、檜皮葺の文化財修理として、拵え、葺含めて 100 坪、300 平米の仕事があると、材料確保、人材育成が可能と思います。
- ・ 仕事ください。
- ・ 国や行政からの工事が平均的に出るように願います。
- ・ 本当に国、県の仕事がない。
国、行政に声をかけていただき仕事を確保していただきたい。
- ・ 現場数 4 つ（下請含む）欲しいところ・・・
元請工事のみ記しました。